

弓道ながの

第76号

発行：長野県弓道連盟
会長 外蘭公毅
〒399-4117
駒ヶ根市赤穂10214-4
TEL0265(83)5206
編集：県弓連
印刷：成進社

巻頭言

審査の公平・公正性とは

長野県弓道連盟会長 外蘭公毅



令和二年度は新型コロナウイルス禍に振り回された一年となりました。この原稿を書いている十一月末の時点で、感染者が「第一波」や「第二波」を上回る勢いで拡大しており、全国、東京、北海道、長野県など毎日過去最多を更新し続けている状態で、小池東京都知事が感染予防の徹底として「5つの小(こ)」の実施を呼びかけていました。

令和二年度の県弓連行事の遂行状態はご存じの通りですが、やっと九月に支部対抗射会を、また十一月には四段以下審査会を二回、五段以下審査会を一回、高校生以下のビデオ

審査会を東北中南信四地区で行うことができました。感染状況を日々々にしながら県及び日本スポ協、全弓連から出された感染拡大防止ガイドラインに忠実に則った要領の検討・作成、準備など、競技部・審査部の並ならぬ努力に敬意を表すると同時に関係役員、実施支部の皆さんのご尽力に心よりお礼を申し上げます。少ないチャンスでの審査会実施に当たって、審査の公平・公正性とは何かを考えさせられました。

全弓連の新体制が構築されたのは、公益財団法人全日本弓道連盟の法人としての運営ができるようにということであるが、理事、監事、評議員は、審査委員、講師のいずれにも就

くことができないうなっている。また、審査委員と講師は厳密に分けるとあるが、それはどういう意味を持っているのであろうか。審査も講師もやらない人がどうやって改革するのだろうか。

審査の公平・公正性、透明性をどのように定義づけているかをこれまでの内閣府の審査についての指摘事項、それに対する全弓連の回答から結論を出す(第三者(国民)が納得できる(説明できる)判定結果)と言える。そのためには前述した理事、審査委員の兼務禁止/審査委員と講師は厳密に分ける/合否判定や審査委員個々の評価内容の公表/現行合否判定の○、×方式は0点か100点である。点数制の導入/他武道の審査基準の調査/既得段位・称号取得後の経過年数条件の見直し/段位と称号を関連付けずにそれぞれ別々に進める/などがあげられていた。これで審査の公平・公正性が得られるのか甚だ疑問だが、これらの検討はどこまで進展しているのか進捗状況の連絡はない。コロナの所為にされがちなが、こういうときだからこそじっくり取り組めたのではないだろうか。

地連審査の全国統一化、整合性は以前から言われていることであり、各

地連が地連の実態(会員数、財政、高校・中学の会員数等)に合わせてバラバラな審査基準でやっている限り、公平・公正性も何もあつたものではない。統一基準が示されない限り、特に今回のビデオ審査については、高校生はチャンスが一回しかなかったという点、また全弓連の主旨を勝手に忖度して長野県独自の判定基準を若干採用した。

全日本弓道連盟が公財化移行に何を求めたのか、その目的は達成される方向に向かっているのか、日本の伝統文化としての弓道が守られ発展していくのか再考していただきたい。内閣府の指導に対して、それに応えるための法制化だけを急ぎ、そのことが弓道の将来にどのように影響してくるかをよく考えないと、弓道連盟の瓦解に繋がっていくと危惧するのは杞憂か。

このコロナ禍は年を越して今年もしばらくは窮屈な活動を強いられそうです。マスクを外す日が一日も早く訪れますよう、弓士の皆様も感染予防に留意され、ご自愛専一にお過ごしください。

コロナ禍での支部対抗開催について

競技部長 内山 喜照

前号の『弓道ながの』にてお知らせいたしましたように、去る九月六日、日曜日に県営飯田弓道場にて令和二年度の長野県弓道支部対抗競技会を開催いたしました。開催にあたっては県弓連役員、地元飯伊支部の多大なるご理解とご協力をいただき、何とか実施することができました。改めて関係各位に感謝いたします。結果については前号にて報告していただきますので、ここでは大会に際して行った新型コロナウイルス感染症防止対策について、例年と異なった点をご紹介します。

令和二年九月初旬の県内は感染の第二波が到来中で、連日十名前後の新規感染者が報道されてきました。県の警戒レベルは全域で注意報の2、一部感染拡大地域で特別警報の4が出されている状況でした。この状況下での開催実現は慎重になりましたが、人の移動制限はかかっておらず、野球やサッカーなどのスポーツイベントも観客を抑えながら実施している時期でしたので、細心の注意を払いつつ開催することとしました。

開催にあたっては各地域の状況に差

があることから、各支部に判断していただく任意参加としました。開催して集まることには少なからずリスクを伴うため、無理強いはできません。事情を鑑み、結果として四支部が出場見合わせとなりましたが、これも賢明な判断だったかと思えます。

感染のリスクは集団での飲食によって高まるという情報から、午前中で大会を終わらせ昼食を取らずに解散できるように日程を組みました。時間短縮と人が密集する機会を減らすため、開会式、閉会式も行わないこととしました。集合時間もチームの立順によって



時差をつけ、受付に集中してしまわないような策を考えました。遠

的については、射場及び控えの間での距離確保のため、通常の団体五人制をやめ三人制としました。例年ですと同中競射に一時間で

上かかっているため、遠的三人制では得点制を採用し、近的団体は一回戦の成績を優先するなどして、競射が少なくなるように配慮しました。

選手控については第一控のみとし、

時間割制で指定した時刻に集合、10分後に行射として、複数人が同じ場所に滞在する時間をできるだけ短くしました。結果として立と立の間に間が空いてしまい、全体の所要時間は例年より10%ほど長くなりましたが、人の接触は少なくすることができました。しかしながら

射場以外の待ち時間での選手同士の3密はあったようで、今後の課題を残しました。

役員の対応としては、矢拭きは使い捨てのペーパータオルを使う、選手の弓具に触れるときは手袋をする、競技中はマスクを着用する、休憩のお茶菓子は用意せず個人にペットボトルを配布する、などの役員を守る対策も実施しました。熱中症の心配も考え、服装はネクタ



れしく思いました。コロナウイルスとはうまく付き合いながら、また皆で集まって競技会ができるように祈っております。



イ着用ではなく涼しい恰好でお願いしましたが、この日は猛暑日にはならず事なきを得ました。

大会後の経過として、出席者の中から感染者は出ることはなく、県内の第

二波も数日で収束に向かいましたので、大事に至ることはありませんでした。例年より2/3程度に規模を縮小しての大会となりましたが、幸運にも無事に終えることができました。しかしながらまだ油断ができる状況ではありません。おそらく来年度以降も何らかの対策が求められ、お互いに気を付けながらの行事の実施になるかと思えます。実施に当たりいろいろなご意見もいただきましたが、やはり集まって弓道ができることはい

以上

講習会を終えて

飯伊支部 岩村 拓生

十一月十四日に県営飯田弓道場において、「飯田市スポーツ協会 競技力向上事業 弓道講習会」を開いていただきました。

今回の講師は、範士八段 近藤峯英先生、教士七段 新津一夫先生をお招きし、受講生は高校生23名、一般39名での開催でした。今年にはコロナ禍での事もあり、講習会などは今年いっぱい、もしかしたら来年もしばらく開催されないかと思っていた所、このような講習会を開催して下さいました。

礼記射義・射法訓の唱和の後、射手を近藤先生、介添を受講生2名で矢渡を行いました。矢渡の講評では第一介添の雪



駄を履く時の注意や第二介添は射手が肌脱ぎをした後の後退の仕方を指摘されました。

その後全員で一手行射を行い、一人ずつ講評をいただきました。この中では、

「緩めてまで中てる事は無い、引いたままの強さで離れる」

「正しい狙いで自分に甘くない稽古を。違う狙いで引くのは自分に対する甘え」

「顔の不正は射品に繋がる」

「教本に則り全弓連の体配をする、自分勝手にやってみるとは無意味」

など、様々な事を指摘していただきました。

午後からは競技に対する講和をしていただき、「競技」としての弓道と審査のように見られる弓を分ける難しさ等をお話いただきました。

その後、持的射礼と一つの射礼をそれぞれ段位ごとに分けて行い、直さなければならぬ所をその都度指摘していただき、今回の講習会は終了しました。

高校生からは、普段やる上で気づかない体配のことや意識、癖を改善するためのヒントなどを貰えてとても参考になったという声もあり、高校生達にも成長する為のヒントを多く得られた講習会になったのではないかなと思います。

今回の講習会は範士の先生が講師として来て下さり、私もそうですが段位の

低い人がなかなか得られない講習会になりました。先生方よりいただいた事をヒントに稽古の内容も再確認しなければと思います、これからも精進して参ります。

弓道講習会

長野県飯田高等学校二年 鹿島 瑠莉

今回、弓道講習会を受けて、私は射法

八節を一から見直し、大会だけでなく、八年後の国体弓道競技や、これから高校を卒業してから弓を引くことを考え、学ぶことができました。まず、印象に残っているのは、近藤先生の射です。

動作も素晴らしく、射は息をのむ美しさでした。私も近藤先生のように人を魅了できる射をしたいと思いました。

その後、実技講習に入り、新津先生は一人一人丁寧に教えてくださり、私は弓手の離し方をご指導いただき、乙矢で実践し中することができました。しかし、次の立ちではやっているつもりでもできておらず、的中することができませんでした。なので、練習し、定着できるようにしたいと思いました。

次に、新津先生による講義を受けました。お話の中で大切だと思ったのは「動作をひとつひとつ確認する」ということです。大会で緊張していても、射法八節をひとつひとつ確認して引くことで、



大会でも自分の射ができると思います。他にも、射術については、弓返りについてや、射法八節のポイントをひとつずつ教えていただき、質問にも丁寧に答えただけでした。今までに知らなかったことや、新しい見方など新鮮に思うことも多くありました。特に、馬手の離れ方について、今までの学校の練習ではなかなかイメージが掴めていなかったのですが、新津先生に馬手をひねり、弦を引き抜いて離すということを教えてくださいました。離れのイメージがしやすくなりました。今回の講習会では、教えていただいたことの定着や、近藤先生のような魅力的な射には本当にまだまだ遠いので、これから自分の理想の射を目指して練習をし、高校を卒業してからも弓道を続けたいと思います。

私と弓道

大北支部 五段 山田 鏗二



定年退職後何をするか迷っていたとき、妻から「弓道を始めたら」と強い勧めがあり、これが弓道を始める切っ掛けでした。最初、松本弓道会の関澤喜内先生にご指導をいただき、弓道を続ける決心をしました。杉田博先生もおられ、新米の私にまで懇切丁寧なご指導をいただきました。左足首を痛め、跪坐ができない自分に対し、竹内律子先生から、「立射でも立派な射法です」と励ましを受け、大北支部に移っても専ら立射のみで弓道を続けています。

時には、先輩である妻の厳しい指導もあり、少しずつ中りがではじめた頃、土川俊市先生から「的中するだけでは弓道ではない。射品射格を重んじ、その上で鋭い弦音、矢とび、残身(心)で自分の射の良し悪しを判断するように」と、弓道の神髄をご教授いただき、益々弓道の魅力にはまりました。

射法訓に「金体白色、西半月の位なり」と書かれています。物理的に考えると、夜明け前、東の空に金星が輝く時、下弦の半月が西の空に見える訳がない。何故このようなことが書かれているか分かりませんでした。最近、大町弓道会会長山崎充夫先生から、「それは古代中国の五行説に基づいたものだ」と教えていただきました。五行説では、「金」も「白」も西の方角を示し、そのため「西半月の位」と受けたのでしよう。しかし、「それが分かったところで、弓道が上達する訳ではない」と釘を刺されました。精神面で「金体白色、西半月の位」を感じると、それが射によって生まれる悟りの姿の真実かもしれません。

真善美を追求する弓道は、自分自身を磨くものです。諸先生方のお教えを常に頭におきながら、妻と一緒に日々の練習に励んでいます。

弓仲間紹介

上小支部 平岩 真吾

令和に改元されたGWは九連休もあり「有意義な連休? 弓、引いてみようかな。六年ぶりだっけ」。やめたつもりでいたが、ふと思立ち、現住所最寄りの東御市弓道場へお邪魔しました。

すると押金孝先生に再会し「押金先生お久しぶりです!」とご挨拶すると、「東御に家を建てたと聞いていたから、いつか来ると思っていたよ!」と押金先生のお人柄に包まれて、上小支部へ入会しました。



この二日後、大学の先輩で頻繁に交流していた大和さんからTELがあり「久しぶり! 三年休んで再開したよ。また一緒に弓道しよう!」と。なんと、大和さんも弓道から離れてから同じタイミングで再開。こういう縁を何と云うのか。こうした仲間との偶然的再会が重なったお陰で、弓道を再開することができました。

面白がって県内の大会に出てみると、以前に親交のあった方々が「久しぶり! 元気だった?」等とお声をかけて下さり、弓道で結ばれる仲間の素晴らしさを痛感しました。

そんな矢先コロナ騒ぎで現在は第三波です。全国各連盟や団体の大会等が中止、高校生はビデオ審査等、仲間との出会いが減り『未経験の常識』が始まりました。

弓道には、他人が的と向き合う誠実な姿勢に刺激を受けて学ぶ面や、仲間同士で日頃の成果を見せ合う面があると思います。

私は弓道を通じて社会参加の重要性を強調したいのですが、諏訪中央病院名誉院長の鎌田實先生も地方講演で「ソーシャルディスタンスではなく、フィジカルディスタンス(身体的距離)を保ち、ソーシャルコネクティヴ(社会的つながり)を持ち続けることが大切」と説かれました。

私にとってこれまでに出会った多くの方々が心の支えになっています。私もどこかの誰かの支えになれる様、仲間とのつながりを大切にして弓道が続けていきたいと思います。

県内地方審査会開催!

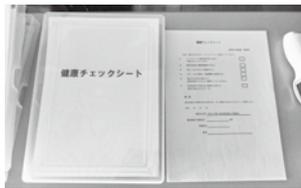
令和2年度 中南信四段以下審査会
 令和2年度 東北信四段以下審査会
 令和2年度 五段審査会

期日：令和2年11月8日(日)
 期日：令和2年11月22日(日)
 期日：令和2年11月15日(日)

於：駒ヶ根市弓道場
 於：上田城跡公園弓道場
 於：松本市弓道場

様変わりした風景

ガイドラインに沿った感染予防対策



行射以外ではマスク着用



明けましておめでとうございます

野辺山洗心弓道場

近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)
 12人立2ヶ所
 遠的道場 1ヶ所

弓道合宿予約随時受付中!

帝産ロτζヂ

〒384-1305

長野県南佐久郡南牧村野辺山1003

HP: <http://www.teisanlodge.com/>

ご予約・お問い合わせは0267-98-2861

令和2年7月16日
公益財団法人全日本弓道連盟

新型コロナウイルス感染防止対策弓道ガイドライン

弓道練習等における新型コロナウイルス感染防止対策に関し、下記のとおり本連盟の推奨するガイドラインを公表します。なお、感染状況は都道府県において大きく異なり、また日々大きく変動しています。この状況を踏まえ、都道府県教育委員会・都道府県スポーツ協会の直近の指導を遵守し、公共及び各学校施設などの利用要領及び市区町村学校、部活指導などの指針を勘案の上、本ガイドラインを活用ください。

施設内(更衣、準備、練習、待機、休憩等各場面)でのマスクの着用に関しては、行政、都道府県委員会、体育館施設の指針に従ってください。

(1)基本

「3密」を避け、手洗い、用具等の消毒を十分に行うこと。

(2)利用者について

- ・道場(施設内)に入る時には、先ず手指をアルコール消毒してから体温を測定し、37.5度以上の熱のあるものは入館を控えること。
- ・スマートフォンを携帯している者は、新型コロナウイルス接触確認アプリをインストールして活用することを強く推奨する。
- ・万一、感染が確認された場合には、利用施設に至急ご報告をお願いします。

(3)練習中について

- ・射手間隔は1.8m以上あけること。
- ・行射中は、安全および熱中症等を考慮し、マスクの着用は不要とする。
- ・更衣室、控室などではマスクを着用し、各自が2m程度離れ、大声での会話はしないこと。
- ・矢取りを担当した者は返却後、手の消毒を行うこと。
- ・矢が返却され次第、各自の矢は各自が除菌シートなどで消毒すること。
- ・他人の弓具に触れないこと。尚、弓道場の弓具を借用した場合は、使用前後に消毒を行うこと。
- ・弓具の貸し借りは原則禁止だが、教室などで共有する場合は使用者同士が消毒して渡すこと。

(4)指導者について

- ・指導者は特に手の消毒を頻繁に充分に行うこと。携帯の消毒液を持参するのが望ましい。
- ・マスクを着用し、指導対象者との距離を保つことが好ましい。
- ・接触指導はできるだけ避け、可能な限り言動で行うことが好ましい。
- ・多人数の場合は、指導対象者を1か所に集めるのは避け、時間を区切り分散指導を行うこと。

(5)道場・施設を管理する者には、下記を実施することを願います。

- ・感染者が利用者の中に発生した場合、同時期利用者に連絡が取れるように、連絡先を記した全員の入館記録を取り1か月保管すること。記録は、個人情報として取扱うこと。
- ・施設内入口に必ず非接触体温計を設置すること。
- ・アルコール消毒液を下記の場所などに設置すること。
 - 道場出入口 ■弓具収納場所 ■トイレ ■更衣室 ■矢立て箱付近
- ・除菌シートを矢立箱付近に設置。
- ・道場出入口や窓などを開け、通気性のよい換気を行うこと。
- ・狭い更衣室では「3密」にならないよう使用制限を設けること。
- ・道場の広さによっては、時間帯で人数制限を行うなど考慮すること。
- ・施設利用者の感染情報については、個人情報として慎重に取り扱うこと。

以上

本ガイドラインは、今後、政府、自治体の対策、指示の変更に合わせて、変更することがあります。

大会結果

令和2年度飯田市民弓道大会

○令和2年10月4日(日)

飯田運動公園県営飯田弓道場

参加人数：高校114名、一般35名

合計149名

■個人の部

▲高校1年生

- 1位 大場 来覇(〇I長姫A)
- 2位 高橋 達哉(〇I長姫A)
- 3位 竹村 海青(飯田C)
- 4位 岡島明日美(飯田F)
- 5位 宮澤 拓朗(飯田C)

▲高校2・3年生

- 1位 宮下 悦輝(〇I長姫A)
- 2位 池田 智輝(飯田A)
- 3位 川島 悠星(〇I長姫A)
- 4位 福沢 優妃(松川B)
- 5位 菅沼はる香(〇I長姫C)

▲一般

- 1位 岩村 拓生(松川)
- 2位 中村 健二(矢真飛)
- 3位 坪井 優(矢真飛)
- 4位 塩澤 忍(混成 山本鼎竜丘)
- 5位 久保田太志(混成 豊丘下條)

■団体の部

▲高校

- 1位 O I長姫A(2年)(井原日寿、川島悠星、宮下悦輝) 20中
- 2位 O I長姫A(1年)(高橋達哉、塩澤礼夢、大場来覇) 18中
- 3位 飯田A(小林純大、青山慶汰、池田智輝) 16中

▲一般

- 1位 矢真飛(中村健二、坪井優、松枝敏広) 26中
- 2位 混成豊丘下條(井原寿恵、唐澤徳、久保田太志) 22中
- 3位 混成松川阿南(松澤英男、金田磯子、岩村拓生) 19中

令和2年度長野県高等学校新入体育大会 弓道競技会

○令和2年10月17日(土)・18日(日)

塩尻市弓道場

■個人の部

▲男子

- 1位 石原 蒼大(塩尻志学館) 10中
- 2位 田畑 光唯(飯田風越) 9中
- 3位 林田 和也(大町岳陽) 8中
- 4位 藤原 光希(木曾青峰) 8中
- 5位 石田 湧信(長野日大) 8中

▲女子

- 1位 宮木 楓花(松商学園) 11中
- 2位 茅野 愛未(諏訪二葉) 10中
- 3位 小室 葵(飯田女子) 9中

■団体の部

▲男子

- 4位 井坪 日和(伊那西) 8中
- 5位 竹村 香穂(伊那弥生ヶ丘) 8中
- 1位 長野B(前沢尚輝、中村優志、小林稜真、鎌田光) 8中
- 2位 上田千曲(庄田匠、松久隼士、依田翔吾、西沢俊也) 8中
- 3位 長野日大A(石田湧信、小山瑛己、石井丈巳、山岸海聖) 8中

▲女子

- 1位 飯田女子B(宮脇萌花、小室葵、菅野雪菜、松澤滂) 8中
- 2位 長野B(鈴木はな、小林美結、佐藤菜々花、関塚果) 8中
- 3位 長野日大A(吉味祐里、小林愛梨、隈崎幸菜、川久保真七) 8中
- 3位 松商学園B(久保田結実、中村歩莉、今井花音、竹内由菜) 8中

第10回北信越高等学校弓道新人大会

○令和2年11月21日(土)

松本市弓道場

■団体の部

▲男子

- 1位 金沢市立工業(石川県) 8中
- 2位 金沢泉丘(石川県) 8中
- 3位 砺波工業(富山県) 8中
- 星稜(石川県) 8中

謹賀新年

遠的ダンボール白黒 (79cm・100cm)
 遠的ダンボールカラー (100cm)
 遠的紙カラー貼り合わせ (100cm)

〒380-0935

長野市中御所1-12-5

TEL ▶ 026-228-3443

FAX ▶ 026-223-4855

通 常 ▶ 8:00~18:00

日・祝 ▶ 8:00~17:00

定休日 ▶ 月曜日

全日本弓道具協会会員



有限会社 中島弓具店

URL ▶ <http://www.nakajima-kyugu.com>

E-mail ▶ info@nakajima-kyugu.com



第76回国民体育大会・弓道競技
長野県成年男女一次選考会

令和2年11月22日(日)

塩尻市菅弓道場

参加人数：男子29名、女子9名

合計38名

成年男子12名(会長推薦含む)

小田切祐典(小諸)

保科 良介(上伊那)

蟹澤 契太(上伊那)

岩原 祐貴(諏訪)

林 貴徳(木曾)

清水 北登(佐久)

山崎 征樹(松本)

蟹澤 史弥(上伊那)

中村 健二(飯伊)

岩村 拓生(飯伊)

藤森千友貴(上小)

平澤 敏弘(飯伊)

成年女子10名(会長推薦含む)

保科 菜袖(塩尻)

井原 寿恵(飯伊)

飯野 葵(諏訪)

大山 綾(松本)

馬場 絢音(上伊那)

中田 美千(松本)

藤澤 敏恵(長野)

米持 奈々(須高)

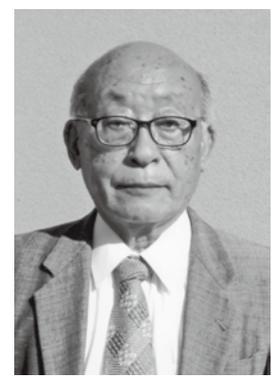
大橋 歩実(佐久)

秋の叙勲

瑞宝中綬章(教育研究功勞)

山田 鏗二(80)

(弓道五段、北安曇郡松川村)



経歴

名古屋出身で名古屋大学大学院工学研究科博士課程を修了し、岐阜大学教養部助教授、教授などを経て、平成6年信州大学理学部教授に就いた。18年3月に定年退職し、同4月に信州大学名誉教授の称号が授与された。40年以上にわたり大学で物理学の講義を行い、学生や大学院生の教育・指導に努めた。定年退職後に松川村に移住し、妻の勧めで弓道を始めた。毎日1時間弓を引くのが日課となっている。

COMMENT

最近、政府が主体となって、フィジカル(現実)空間とサイバー(仮想)空間を連携し、全ての物や情報、人をつなぐことで、経済発展と社会的課題の解決を目指すという、いわゆるスマート社会への動きが活発になっている。人類は歴史的にみて、狩猟社会、農耕社会、工業社会と進化し、20世紀で情報化社会を迎えたが、これらモノと情報が本格的に融合するのがSociety5.0の社会である。

Society5.0の視点で弓界を眺めてみると、弓、矢、かけがインターネットと繋がることはなさそうなので、サイバー空間と繋がるのは弓士の皆さんである(的や観的はネットに繋がるといろいろ便利?)。実際、長野県の弓道の情報は県弓連のホームページで得られるし、この「弓道ながの」もインターネット上でご覧になっている方々も多いだろう。全弓連もわかり。最近発行されるようになった会報も電子媒体だ。筆者が所属しているローカルの弓道会でも、各種情報をLINEで送ってくるようになった。長々とした文章、情報がたまにとさつと届き、スマホを見た瞬間、目がしよほしよほする。

コロナの影響でテレワークが本格導入され、顔を合わさず、まさにサイバー空間上で仕事をやる機会も多くなってきた。上述の通り、弓道は道具のレベルでサイバー空間に繋がることはなさそうだが、仮に繋いだところで実際に弓は引けないから、世の中がSociety5.0になったとしても、弓士は弓道場に集まり、皆で弓を引いて楽しむ、修練をするという光景に変化はなさそうだ。こういうダイレクトな人と人とのつながりを約束してくれる弓道というのは、まさにこれからの時代に必要とされるモノ?コト?なのかなあと思う。

上伊那支部 手塚信一郎